

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 4 月 22 日

【評価実施概要】

事業所番号	3870103664		
法人名	有限会社トータルケア果の実		
事業所名	グループホーム こころ		
所在地	松山市西垣生町5 7 5番地6 (電話) 089-971-8705		
管理者	竹内 美香		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 2 月 20 日	評価確定日	平成 20 年 4 月 23 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 1 月 30 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 15 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	14.5 人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 200 円
	または1日当たり 円		

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 1 月 30 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護 1	7 名	要介護 2	1 名
要介護 3	6 名	要介護 4	2 名
要介護 5	2 名	要支援 2	名
年齢	平均 82.5 歳	最低 66 歳	最高 92 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	あり	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広い敷地内にある2階建てのホームである。運営法人は建設業を営んでおり、運営者は専門性を活かして、ウッドデッキ、床暖房、収納スペースの工夫など、居心地良い清潔な住環境を提供している。基本理念を基に具体的行動目標を立て、職員は笑顔でゆったりと利用者に接している。介護計画は本人と家族の意向を基に職員が話し合い、アイデアを出し合った個別のプランを作成している。ボランティアの方々や、毎月2回の音楽療法、医療連携訪問等を楽しみながら、機能の維持と低下防止に努めている。食事は栄養士の資格を持つ職員が栄養バランスに配慮した献立を立て、利用者の食べる楽しみと健康を支援している。管理者は地域密着型サービスの意義を理解し、ホームの質の向上を目指して意欲的に取り組む姿勢が見られる。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

評価結果を活かし、地域との交流に努め、行事やイベントに積極的に参加したりボランティアを受け入れている。また、災害対策として食糧・飲料水などの備蓄を用意している。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

評価の意義をミーティングを通して理解し、職員全員で取り組み、振り返りや気づきを日々のケアに活かしている。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

市担当者、地域住民代表や家族等を招いて2か月毎に開催している。ホームの紹介・現状報告、利用者の暮らしぶり、外部評価結果の公表、ホーム主催の夏祭り実施についてなどを議題として、参加者から意見等を出してもらい、また協力を仰ぎ、それらを運営に反映している。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

家族の訪問時や運営推進会議でも意見の把握に努め、出された要望や意見をサービスに活かしている。重要事項説明書に苦情相談窓口を明示し、ホーム玄関にも意見箱を設置して対応している。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

町内会に入会しており、老人会や運動会など地域行事に参加したり、ホーム主催の夏祭りにも来てもらえるよう周知するなど、交流に努めている。また、踊りや生バンド演奏などの地域ボランティア、中学生の体験学習、幼稚園児の訪問等を受け入れるなど連携を図っている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホーム ころ

(ユニット名)

あんず

記入者(管理者)

氏名

竹内 美香 伊藤 勇希

評価完了日

平成 20 年 2 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 開設以来の“信頼・和・安心”の理念を系列の3ユニットで話し合い、よく理解し継続可能な具体的な行動目標を設定し日々努力している。 (外部評価) 設立当初に作成した理念を見直し、職員で話し合った上で、再度、事業所独自の基本理念としている。	※	今後ご利用者・ご家族・地域の方々との信頼関係を大切にし、安心して穏やかで和みのある生活を送って頂けるよう笑顔で関わっていききたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 朝・夕の申し送りや月1回のミーティング等で理念を確認しあい、職員の休憩場所やロッカー等の目のつく場所に掲示し自身の振り返りの機会を設けている。 (外部評価) 基本理念をふまえ、管理者と職員が話し合い、10項目の具体的な行動目標を作成し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 各ユニットの入口や、ご利用者・ご家族が集うリビングに掲示し、親しんでいただける様にしている。入居契約時に理念の説明と理念に基づき支援させて頂く旨を十分に説明している。		第1回の運営推進会議にて、ホームの成り立ちや理念・運営者の思いを説明させて頂いた。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 天気の良い日などはホーム周辺を散歩し、途中 近隣の方々と積極的に笑顔で挨拶し、顔馴染みになれる様に努めている。散歩途中、休憩をしていると 通りすがりの方が話しかけてくれる事がある。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 敬老会や秋祭り等、地域行事などに積極的に参加している。近隣の中学生が職場体験の場として10名程2日間に渡り福祉や認知症、地域に密着したのグループホームの在り方として理解を深めていただいたり、少しずつではあるが地域との交流の機会が増えてきている。 (外部評価) 町内会に入会し、老人会や運動会など地域行事に利用者と共に参加したり、ホーム主催の夏祭りに地域住民に参加を呼びかけている。また、毎月1回「お話の会」や踊り、生バンド演奏などのボランティアに来てもらったり、中学生の体験学習や幼稚園の訪問を受け入れるなど、地域の人々との交流を図っている。		ご利用者と職員が仲良く・笑顔で、地域の方々と関わっていきたい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域の中の事業所として相互に協調・協力しあえる関係を築きたいが模索中であり、地域貢献にまでは至っていない。	※	事業所として何ができるか全職員で話し合いながら取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 全職員は外部評価を受ける意義をミーティングを通して理解を深め、個々に自己評価に取り組んだ後、前回の評価と比較して改善された点、再確認しなければならない点を見直したり、系列のグループホームの評価結果も参考にし、できる所から改善に取り組んでいる。 (外部評価) 自己評価の意義をミーティングを通して理解し、職員全員で取り組み、日々のケアの振り返りと気づきの機会となっている。改善計画書の作成には至っていないが、外部評価の結果を活かして、地域との交流や、災害対策としての備蓄の整備等に取り組んでいる。	※ ※	外部評価や自己評価を活かして、職員の質の向上に繋げていきたい。 計画的に改善に取り組み、質の向上を確認していくためにも、改善計画書の作成を期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 昨年は、ホームの成り立ち・理念・年間行事・1日の流れ・講演等、外部の方にグループホームを理解して頂くような内容を中心に実施し、毎回、地域の方やたくさんのご家族から貴重な意見を頂き、サービスの質の向上に努めている。	※	地域の幅広いメンバーに参加して頂ける様に工夫していきたい。
			(外部評価) 市担当者、地域代表、家族等を招き、2か月毎に開催している。議題にホームの紹介、利用者の様子、外部評価の公表等を取り上げ、参加者から意見や要望を出してもらい、サービスの向上に活かしている。また、ホーム主催の夏祭りへの協力と参加をお願いするなど運営に反映している。しかし、メンバーがやや固定的で地域住民の参加が少ない。	※	地域住民の理解と支援を得るためにも、地域の様々な分野から会議に参加してもらうよう働きかけていくことを期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 松山市社協の職員の方の実習受け入れ先として、ホームを活用して頂き、ご利用者や職員との交流を図った。研修の相談や困り事にアドバイス頂いたりもしている。また、松山市介護保険課の方に内部研修の講師を依頼し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
			(外部評価) 市担当者とは、研修に関することや分からないことを相談したり、ホームの内部研修の講師を依頼するなどで行き来する機会をもち、サービスの質の向上とともに取り組んでいる。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 外部から講師を招き、勉強会の機会を設けている。ご利用者の方の中に、必要とされる方はいないか？職員間で話し合ったり、ご家族や地域の方からの質問に対応できる様に努めている。	※	定期的に学んでいき、理解を深め、必要な方には活用できるようにしていきたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 外部から講師を招き、勉強会を設けて虐待行為の定義や発見時の対応方法を学び、自身の日々のケアに活用している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居前にご本人やご家族に見学して頂き、十分な説明を行ったりご意向を確認し、納得して頂いた上で入所契約を行っている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご自身で意見の言えるご利用者は、意見・不満を積極的に言われる。意見を上手く伝えられないご利用者には、担当職員が代弁したり、表情等から察する様にしている。リビングでの語らいの際、意見や思いを伝えられる雰囲気作りに努めている。	※	今後もご利用者の思いを気づけるように、たくさんの対話を重ねていきたい。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) ご利用者の健康状態や暮らしぶりなど、ご家族が来訪された時や電話で連絡・相談を密に行っている。金銭管理は来訪時に確認・サインして頂いている。職員の異動等については、ホーム便りにてお知らせする様にしている。 (外部評価) 季刊から毎月発行に変更したホーム便りで、利用者の誕生日、折々の行事での様子、職員の異動等について知らせ、また金銭出納簿を送って確認印を貰うなど、家族に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	※	ホーム便りの内容を充実させていきたい。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居契約説明時に、重要事項説明書にて内外の苦情相談窓口をお知らせしている。運営推進会議や来訪時に意見や希望をお伺いし、ミーティングで話し合い、日々の業務の中で反映させる様に努めている。また、季節行事等に参加して頂き、ご家族と職員が親睦が図れ、信頼関係を築き言い易い雰囲気作りをしている。 (外部評価) 意見や要望を出しやすいよう工夫し、家族の訪問時や運営推進会議上で意見等の把握に努め、出された意見等を運営に反映している。重要事項説明書に苦情相談窓口を明示し、玄関にも意見箱を設置している。		運営推進会議でも、ご家族が活発に意見を出して下さるので、今後も訪問時等に対話を重ねていき、たくさんの意見を頂ける関係を築いていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日々の申し送りや全体ミーティング・miniミーティング等で意見を出し合い話し合っている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) ユニット長がシフト作成後、管理者・運営者が再確認している。行事等には職員を多く配置したり、余裕を持った人員を確保している。職員の急な休みの時には管理者・運営者やユニット同士で協力しあい、普段から柔軟な体制がとれる様に努めている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 運営者はやむを得ず離職する場合、2～3ヶ月の引き継ぎ期間を十分に取り、スムーズに移行できるよう配慮している。 (外部評価) 異動や離職を最小限に抑え、ここ半年は落ち着いている。異動・離職がある場合は3か月の準備期間を設け、新規職員を全員に紹介するなど、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 回覧で研修案内情報を全職員に知らせ、段階的に全職員が積極的に働きながら学べる機会を確保している。受講後は報告書を作成し、ミーティングで発表し、全職員が共有している。外部からも講師を招き、受講できる機会も設けている。 (外部評価) 内部研修は市担当者を講師に招くなどして実施している。外部研修は回覧で職員全員に知らせ、参加者には費用の補助を行うなど、積極的な受講を勧めている。研修内容は報告書にまとめ、職員全員が共有できるようにしている。	※	今後も情報は全職員に伝え、全職員が積極的に受講し、質の向上に努めたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会の研修等に参加し、情報交換を行ったり、相互評価事業に参加しサービスの質の向上に努めている。包括支援センター主宰の意見交換会に参加し、同業者との交流を図っている。	※	職員同士が他の同業者と交流が図れる機会をたくさん設けて欲しい。
			(外部評価) 県グループホーム連絡協議会の相互評価事業等に参加し、交流や情報交換に努めている。地域の特性もあり、地域の同業者との勉強会、相互訪問等の実施には至っていない。	※	運営者は地域の同業者とネットワークを結び、職員が相互訪問や勉強会の機会をもてるよう積極的に取り組むことを期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) ご利用者と離れ、心身を休める場所を確保し、リフレッシュして業務にあたる様、配慮している。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 運営者は頻繁にホームに来ており、職員個々の業務や悩みを把握している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居前にご本人にお会いし、心身の状態や生活状況を把握し、思いや不安を受け止めるよう努力している。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) これまでの経緯を伺い、ご家族の思いを受け止めながら、しっかり話を聴き、事業所としてどのような対応ができるか？今後の方向性について話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、ご本人やご家族の思いや状況等を確認し、何が必要かを見極め、速やかにできる限りの対応に努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) ご本人やご家族にホームを見学して頂いたり、入居前にご利用者の在住場所に出向き、関係性を作る様努めている。少しでも不安を取り除ける様、入居前に体験入所もしている。 (外部評価) 利用前の見学やお試し期間など、ホームで他の利用者や職員と過ごすことを通して、馴染みの関係を築きながらサービスを開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) ご利用者、一人一人の思いを共感・理解する様に努め、協働しながら和やかな生活ができる場面作りや声掛けをしている。 (外部評価) 一方的に支援するのではなく、声かけや入浴時の会話、調理を一緒にしたりと共に過ごしながら、昔の習慣を覚えてもらったり、励まされたりと支え合う関係を築いている。	※	行動目標を自然に実践できるよう心かけていきたい。
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご利用者の現在の健康状態や暮らしぶりを来訪時や電話でお伝えしたり、誕生会のメニューを相談したりしている。ご家族が食事作り等、手伝ってくれる事もある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 行事や誕生会にご家族を誘ったり、来訪時に自室にて一緒に御飯を食べて頂いたり、御家族で過ごされる時間を大切に支援し、より良い関係の継続に努めている。		今後も気軽にホームに来て頂ける雰囲気作りに努めて、より良い関係が築いていけるように支援していきたい。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居前の自宅に立ち寄ったり、電話や手紙での連絡を取り持ったり等、つながりを継続できる支援を行っている。	※	日々のケアに追われることもあるけれども、一人ひとりの思いや希望を実現できるように努めていきたい。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) ご利用者が孤立しないようにリビングでの座る席の位置を考慮したり、毎日のお茶や食事の時間は職員も一緒に多くの会話を持つようになっている。外出時にはご利用者が自ら車椅子を押して下さったり支え合う場面が見受けられる。		それぞれの状態を把握しながら、ご利用者同士の調整役となり、ご利用者同士が関わり合う機会を増やしていきたい。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 他の施設へ移られたご利用者の様子をご家族に伺ったり、継続的な関係が保てる様、心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で、一人ひとりの思いを把握できる様、会話や行動、表情から汲み取る様、努めている。10時のおやつには好みの飲み物を毎回、伺い提供している。 (外部評価) アセスメントや日々のケアでの気付きを共有し、会話や表情から利用者一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。困難な場合は選択肢を提供して希望や思いを確認するなど工夫している。	※	ご本人の思いに関心を寄せ、思いや意向の把握に努めていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご本人・ご家族・関係者からこれまでの生活歴を伺い、入居後も安心して自分らしく暮らせるよう努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) ご利用者一人ひとりの生活のリズムを理解し、気づきや発見があれば個々の介護記録に記載したり、申し送りやミーティングで全職員が共有できる様、努めている。	※	今後も職員全員で工夫して、現状を共有していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) その人らしくより良く暮らしていただける様、ご本人やご家族にどのように過ごしたい(過ごしていただきたい)か、訪問時や電話でご意向を伺い、作成している。作成後はご本人・ご家族に説明、交付している。		今後も、ご家族・ご本人の意見や要望を大切に、介護計画の実施確認表をチェックし、全職員で意見を出し合っていきたい。
			(外部評価) アセスメントを基に、ユニット毎には毎月、2ユニット合同では隔月で開催するミーティングで担当者を中心に話し合い、アイデアを出し合っって個別の介護計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 担当職員がモニタリングを行い、3ヶ月に1回見直しをしている。それを基に日々の関わりの中での気づきや変化に応じて、ご本人・ご家族等と話し合い見直しを行っている。		
			(外部評価) 担当職員がモニタリングを行い、ミーティングで話し合っって3か月毎に見直しを行っている。定期的見直し以前の状態変化にはその都度対応し、現状に即した介護計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 1日の様子や排泄等身体状況・個別記録はご本人との会話やエピソード等を記録し、情報の共有を行い、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 受診等のご利用者やご家族が希望される病院へお連れしている。主治医の定期的(状況変化時)の往診や訪問看護ステーションと医療連携体制を結び、定期的に集団・個別のリハビリを行っている。 (外部評価) 本人や家族の要望に応じてかかりつけ医の受診同行や、利用者の故郷への同行など、柔軟に支援している。	※	医療面以外で多機能性を活かした柔軟な支援ができるよう考えていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 民生委員の方には運営推進会議に参加して頂いている。地域の方が月1回お話や手遊びをして頂いたり、ボランティアをしているご家族の方が定期的に演奏をして楽しい時間を過ごしている。	※	今後は地域の警察や教育機関へも働きかけ、連携を図れるように努めていきたい。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 地域の美容室と連携を取り、送迎もして頂き、サービスを利用している。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議に参加して頂き、意見等の情報交換を行っている。相談の電話相談を受け、対応困難な場合や相談窓口が判らない時には相談している。		解決を見いだせない問題や悩みなど、今後も相談しアドバイスを頂きたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入居前にご本人とご家族に主治医の確認を行い、かかりつけ医がない場合は、協力医療機関を紹介している。協力医療機関とは24時間体制で連携をとっている。 (外部評価) 本人や家族の希望を優先して受診を支援し、受診状況や結果の記録は協力医療機関とも共有し、適切な医療を受けられるよう支援している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 協力医療機関の先生は認知症に詳しく、適切な指示や助言をしてくださっている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 開設当時から勤務している看護職員が居り、健康管理や医療面での相談・助言を24時間体制で行っている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時には、ご本人への支援方法に関する情報をご家族等と相談しながら医療機関に提供している。入院後は職員が面会に行ったり、回復状況や退院後の生活についてご家族と情報交換しながら早期退院に向けて話し合っている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 入所時に緊急時の対応や重度化した場合のご意向等伺い、状況変化に応じて主治医・ご家族と繰り返し話し合いを行い、申し送りや日々の記録にて全職員で方針を共有している。 (外部評価) 重度化した場合の対応指針を作成しており、入居時の早い段階から本人及び家族と話し合い、重度化した場合や終末期のあり方について全員で方針を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) ご本人やご家族のご意向を踏まえて主治医の指示のもと、チームの一員として対応・連携を図り、より良く暮らせるように取り組んでいる。		今後も協力医療機関と常に連携を図りながら支援していきたい。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 主治医の診療情報や看護サマリー、ホームでの生活の情報提供を行いご利用者が転居後もダメージを受けないよう取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 排泄の誘導や日々の関わりの中で、プライバシーを尊重した言葉かけや対応が行える様に留意している。訪室する際は、ノックや声かけをして入室している。個人情報の取り扱いにも十分配慮して対応している。 (外部評価) 管理者、職員はプライバシーの確保の重要性を認識しており、利用者の誇りを傷つけないよう、声かけや日々のケアに充分配慮している。		みんなと一緒に過ごす時間、居室で過ごす時間、それぞれの時間を大切にし、どんな小さな情報も大切に扱う習慣を身につけていきたい。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 週1回のパンの販売日に、たくさんの種類の中からご自分の好みのパンを選んだり、入浴・食事・飲み物・体操カードに貼るシール等、日々の生活の中でご利用者自身が決定する場面作りをしている。		ご利用者が自己決定できる場を増やしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ホームでの一日の流れはあるが、ご利用者のペースに合わせ、できる限り希望に添える様、話し合ったり、計画を立てたりして個別性のある対応に努めている。 (外部評価) 1日の基本的な流れはあるが、起床時間や食事時間など、本人の習慣や希望にそって過ごせるよう支援している。	※	今後も職員が「見守る」気持ちを忘れずに、一人ひとりのペースに合わせた支援に努めたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 朝の着替えは、基本的にはご本人の意向で決めて頂き、見守りや支援が必要な時には支援している。また、自己決定がしにくいご利用者には職員と一緒に関わりながら選んだりしている。マネキュアや美容室等、希望に合わせて個々に支援する様に努めている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一緒に買い物に行ったり、準備・片付け・食器拭き等、個々の状態に応じて声掛けしながら職員と一緒にしている。ご利用者と職員が同じテーブルに座り、一緒に食事を楽しんでいる。 (外部評価) 買い物や調理を一緒にしたり、食事時に利用者同士が助け合うなど、利用者一人ひとりの力を活かしながら、ユニット毎の特性に合わせて職員と一緒に食卓を囲み会話しながら食事の楽しさを支援している。		それぞれの能力に応じた役割を実感できるように関わっていきたい。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 個々の好みや嗜好品を理解し、場面や状況により提供できる様に努めている。現在、飲酒されるご利用者はいらっしゃらないが、お花見や芋炊きなどでは提供し、行事の雰囲気だけでも楽しんで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェック表を活用して排泄のリズムやパターンを理解し、可能な限りトイレで排泄できるように プライバシーに配慮しながら、声掛け・誘導している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 毎日、入浴希望を確認し、入浴剤で気分転換を図ったり、身体状況に合わせて足浴を行ったりしている。ご利用者と職員が一对一で関われる大切なコミュニケーションの時間であり、拒まれる方には言葉かけや対応の工夫をし、安全に安心して入浴ができるように支援している。 (外部評価) 毎日、利用者の体調に配慮し、希望を確認しながら入浴を支援している。入浴の苦手な利用者には家族の協力を得て入浴を勧めるなど、それぞれに合った工夫をしている。	※	職員のシフト上、安全面を考慮して、時間帯は日中になってしまうが、唯一、一对一でゆったり関われる時間なので、たくさんのお話を聞くように心がけている。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) できるだけ日中の活動を促し、生活のリズムを整えるように努めている。外出した後など一人ひとり安心して休息できるように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 掃除や洗濯干し・たたみや調理の下ごしらえ等、声掛けし、一緒に行ったり、役割を実感できるよう支援している。ご自身が使っていたカメラを持ち込まれ、職員や行事の様子が撮ってくださる。 (外部評価) 調理の下ごしらえ、洗濯物干し・たたみ等の役割を担ってもらったり、職員と一緒にカラオケや歌謡ショーに出かけたり、通信販売での買い物など、一人ひとりの役割や楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	※	定期的に集団・個別で気晴らしや楽しみ事の支援を行っていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ほとんどのご利用者の金銭管理は職員が行っているが、一部のご利用者のご自身で管理・出納を行っている。買い物・外出の際は、おこずかいからご本人に支払をして頂くなど、力に応じた支援をしている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 天気の良い日はシルバーカーや車椅子等も利用してホームの周辺を散歩し、鯉に餌をやったり、食材の買い物と一緒にいたりしている。 (外部評価) スーパーへの買い出し、散歩等に希望に応じて出かけている。ホームの南面に設置しているウッドデッキでのんびりと戸外の様子や季節の風景を眺めながら、外気に触れ日光浴できるよう支援している。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 天気の良い日や希望に応じて、いちご狩りに行ったり、季節の花を觀賞しにドライブに行ったりして気分転換を図り、楽しむ機会を持っている。また、希望を出された時は実現可能であれば検討し支援する様に努めている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族や知人に電話を希望された時は、コードレス電話を使用して自室にてゆったりと電話して頂いている。書いた手紙の投函を支援したりしている。	※	帰宅願望が強いご利用者には、時々電話をかけ、話をして頂いている。
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 玄関に施錠をしておらず、面会時間の制限もなく、いつでも気軽に訪問して頂けるよう配慮している。訪問された時は、笑顔で出迎え、自室やリビングで居心地よく過ごせるよう湯茶の用意をしたり、一緒に食事をして頂いたりしている。	※	今後も気軽に訪問して頂ける関係作りをしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 内部研修を行ったことにより、職員間での意見交換を行う機会が増えた。		身体のみならず、言葉の拘束にも気をつけていきたい。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中、玄関・職員出入り口の施錠はしていない。常に見守りや職員同士の声の掛け合いで、出て行く気配を感じたらさりげなく声をかけたり後をつけて行く等、安全面に配慮している。近くのガソリンスタンドに声をかけたり、中学生が職場体験に来た時、認知症（徘徊）の話をし、万が一、そのような場面に出くわした時のお願いをした。	※	ご利用者が落ち着く環境を提供する工夫をし、徘徊防止のチャイムに頼らず、職員間で声を掛け合い、目配り・気配りを強化していきたい。
			(外部評価) 玄関にチャイムを付けており、日中は鍵をかけていない。職員同士が連携して見守り、利用者が出かける際にはさりげなく同行するなど、利用者の安全に努めている。また、近隣のガソリンスタンドに連絡を依頼したり、体験学習の中学生にも声かけをお願いしている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中はリビングでご利用者全員を見守っている。自室で過ごされる事の多い方に対しては、ノック・声をかけ、さりげなく放室し状態を把握している。夜間は最低2時間ごとに巡回し、安全確認を行っている。		午前中はリビングで過ごされる事が多く、午後からはご自分の時間を大切にされる事が多いが、双方共に配慮しながら安全の確認をしている。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 浴室の戸棚に洗剤等の危険と思われる物を鍵をかけて保管している。活動意欲が触発されるようなはさみ・裁縫道具・工具等は注意を促し、ご利用者の状況変化によって対応している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議で職員・ご家族・民生委員を交えて勉強会を行った。ご利用者の状態に応じて、一人ひとりの状況に応じた事故防止に取り組んでいる。	※	ヒヤリハットを推進しているが記入ができてにくいので、職員の意見により、記入し易いネーミングや書式を考案中である。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 消防職員の方による応急手当の勉強会を実施したり、緊急時対応のマニュアルを作成し、周知徹底している。	※	定期的に繰り返し行っていきたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 消防署の協力を得て、避難訓練や搬送の仕方の講習を行った。現状では地域住民の協力は得られていない。系列のホームの外部評価の結果を活かし、食料や飲料水を準備した。 (外部評価) 消防署の協力を得て、年1回の防火・避難訓練を行っている。防災マニュアル、緊急連絡網を作成し、また食料や飲料水を備蓄して災害時に備えている。法人内の他事業所と協力体制を取っているが、地域住民の協力を得るには至っていない。	※	地域の方と連携が取れるように働きかけていきたい。 災害時に備えて、運営推進会議を通して協力を要請するなど、地域との連携体制の確立に向けた取り組みが求められる。また、防災マニュアルを確認しながらホーム独自の避難訓練を繰り返し行うことが望まれる。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) ご利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて職員間で話し合った意見を、共有・把握し、状態が変化する都度、ご家族に相談・連絡を行っている。		今後も、職員とご家族は随時、話し合っていく、主治医とご家族の関係も支援していきます。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎朝のバイタルサインや排泄チェック表、申し送りで状態の把握に加え、顔色や様子を注意深く観察し、看護師に報告し状態に合わせて対応している。状況に応じ、ご家族に相談・連絡を行っている。		迅速な対応ができるように努めていきたい。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 看護師が一人ひとりの薬情報のファイルを作成し、薬情報に変化があった場合は、朝夕の申し送りや申し送りノートで全職員が内容を把握できるようにしている。		今後も更に注意して支援していきます。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表を基に、それぞれの排泄のリズムを把握し、日常生活の中で散歩や体操等で、体を動かす機会を設けたり水分摂取や繊維質の多い食品を取り入れるように心掛け、できるだけ自然な排便ができるように取り組んでいる。	※	今後も、できるだけ自然な排便ができるように支援していきたい。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 口腔ケアの受講者がミーティングで必要性を発表したり、協力医院である訪問歯科医のアドバイスを受けている。義歯の方は、定期的にボリデント洗浄を行ったり、ご自身でできない方は誘導し支援している。一人ひとりに合った歯ブラシを使用している。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士の資格を所有している職員が献立を作成している。食事や水分量の摂取状況をこまめにチェック・記録し、苦手な物や食が進まない時などは、品を替え対応している。食事前に嚥下体操を行っている。 (外部評価) 利用者一人ひとりの食事及び水分摂取量を記録し、必要量が確保できるよう支援している。献立は栄養士の資格を持つ職員が季節の食材をバランスよく取り入れながら立て、嚥下困難な利用者にはとろみ食を用意するなど配慮している。運営者の釣った新鮮な魚の差し入れが時折あり、利用者は楽しみにしている。		季節行事や習わしなどを大切にしながら過不足が生じないように支援していきたい。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) ご利用者・ご家族の同意を頂き、職員共にインフルエンザの予防接種を受け、手洗い・うがいを心掛けている。感染症予防のマニュアルを作成し、共有空間を中心に消毒を行っている。		ノロウイルス対策に次亜塩素酸ナトリウム消毒液を使用している。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食材の賞味期限に留意し、冷蔵庫内の点検や安全管理に努めている。調理器具や布巾、まな板は毎日消毒している。	※	中国産食材の問題等で、在庫食品の点検や、安全面を考慮して食品を購入している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関周りには花を植えて、季節を感じられる親しみやすい和やかな雰囲気になる様、工夫している。	※	玄関から職員が出入りするのではなく、職員出入り口が別にあるので、玄関まわりの美化等は随時、気にかけているようにしている。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関・廊下・リビングに壁面担当の職員が中心となって、ご利用者と一緒に季節を感じられる様に工夫している。床暖房の設備があり、換気・加湿に留意し、快適に過ごせるよう努めている。 (外部評価) 玄関には観葉植物や季節の花が飾られ、床暖房で暖かい共用空間は居心地よく、食事前には調理の香りが漂っている。居間の壁には手作りの飾りや座敷雛を飾るなど、季節感にも工夫がある。ホームの南面のウッドデッキは、季節の花や木々を眺めながらの利用者と職員の憩いの場となっている。	※	中学生が職場体験で来てくれた際、壁面作りをしてくださりご利用者がたいへん喜ばれたので、地域の方に一緒に関わって頂き、居心地のよい空間作りができるよう連携を図っていきたい。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 和みの部屋やリビングにはソファーや畳の間があり、玄関には運営者手作りの長椅子があり、ご利用者がくつろげる環境作りに努めている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家で使っていた家具などを持ち込み、部屋が殺風景にならぬように出窓に観葉植物などを置き、明るい部屋作りに努めている。本人の希望で畳も敷いている。 (外部評価) 利用者それぞれの好みの物や観葉植物、季節の花を飾り、家族や本人の写真、カレンダー、仏壇やたんすなど馴染みのものを持ち込み、居心地よく過ごせるように工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 新鮮な空気を取り入れるように配慮し、各居室やリビングにエアコン空気清浄機を設置している。ご利用者の衣類の調整もこまめに行い、自然に近い住環境づくりに努め、快適に過ごして頂けるように配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 既存の住環境を職員は十分に把握して、手すり等を利用してご利用者一人ひとりの身体機能に応じ、安全かつ自立した生活が送れるように配慮している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 各居室の入口にご利用者の写真を表札代わりにしたり、便所や浴室には、運営者手作りの墨で書いた分かりやすい表示があり、混乱を防ぎ自立を促せるような環境作りに配慮している。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) リビングから自由に出入りできるウッドデッキがあり、庭の花を楽しみながら日向ぼっこをしたり、桑の実など収穫しジャムを作ったりしている。また、花見や芋炊きなど、ご家族も交えて季節行事を楽しむ大切な空間となっている。		今後も畑やウッドデッキを活用して、楽しみ事を増やしたり、交流の場所となるように工夫していきたい。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない	職員がご利用者一人ひとりの話に耳を傾けることで、ご利用者の思いや願い、不安を伺うことはできているが、安全面や職員体制により意向や願いが叶えられないこともある。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない	10時と15時のおやつや昼食の時間は、ご利用者と職員と一緒にテーブルを囲み談話したり、ゆったりと和やかに過ごしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	みんなで過ごされる時間と、自室で過ごされる時間を個々に大切にされている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	職員と一緒に体操したり、日常生活の支援を行うことにより、会話が弾んだり、笑顔や笑い声がよく見られる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	買い物や散歩、季節行事等、職員と一緒に出かけ楽しんでいるが、体調不良で行けないこともあったり、職員体制上必ずしも、行きたいところに出かけることはできていない。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	夜間はホームに隣接して運営者がおり、ユニットごとに1人、ホーム内に2人の夜勤者を配置し、巡回以外にも見守りも強化している。医療連携体制や職員である看護師が24時間体制で連携をとれるようにしているが、更に努力していく必要がある。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	日々の関わりの中で、個々の思いや要望を伺ったり、思いを理解する様に努めており、安心して生活できている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	(自己 ① ほぼ全ての家族と 評価) ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない	ご家族が訪問されたたびに近況を報告したり、不安な事やご意向を伺っている。入所して日の浅い方に関しては、信頼関係が築けるように努めていきたい。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 ① ほぼ毎日のように 評価) ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない	お話の会や地域の中学生の職場体験や幼稚園児の訪問等、少しずつは地域との交流は増えてきている。今後も努力していきたい。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議を通して、民生委員の方とつながりが拡がった。少しずつでもホームを理解して頂ける様に努めていきたい。
98	職員は、生き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	多少のストレスを抱えていると思うが、行動目標の中の「いつも笑顔を忘れず」を特に心掛け業務にあたっている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	季節行事や外出を楽しみにしておられ、計画の段階から話が弾んでいる。身体状況に合わせて支援はさせていただいているが、職員体制上、希望に添えない事もある。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	「状態に合わせた食事や対応で安心している。」「笑顔が増えて、穏やかになった。」「言われる事はあっても、こちらから言う事はない。」等、言っている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

※各居室や廊下、みんなが集うリビングには冷暖房設備の他、床暖房が設置されており、乾燥を防ぎ足元から温め、換気器具を活用し換気に優れ、快適な住環境で過ごすことができます。

※ホームから自由に入出りできるウッドデッキがあり、桜の木の下で季節行事を楽しんだり、日向ぼっこをしたり交流と親睦の場所となっています。

※菜園で食材や花を育てたり、桑の実などが植えてあり、馴染みの自然に触れる機会を設け、親しみやすい雰囲気作りに努めています。

※昔ながらの木造りで、季節を感じられ安心感があります。

※「信頼」「和」「安心」を基本理念に掲げ、常に笑顔を心がけ、ご利用者・ご家族・地域の方々・職員との信頼関係を大切にし、安心して穏やかで和みのある生活を送って頂けるように努めています。

※日々の状態の変化に注意し、かかりつけ医と連携を図り、医療連携体制や職員である看護師と24時間体制で健康管理に取り組んでいます。

※運営者が新鮮な魚を釣って来て、会話を弾ませながら一緒に食べたり、双海や中山・川内方面へドライブへ行き、気分転換を図り自然に触れる機会をできる限り設けています。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取り組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム ころ

(ユニット名) かりん

記入者(管理者)

氏名 竹内 美香 長 朗代

評価完了日 平成 20 年 2 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 開設以来の“信頼・和・安心”の理念を系列の3ユニットで話し合い、よく理解し継続可能な具体的な行動目標を設定し日々努力している。 (外部評価) 設立当初に作成した理念を見直し、職員で話し合った上で、再度、事業所独自の基本理念としている。	※	今後ご利用者・ご家族・地域の方々との信頼関係を大切にし、安心して穏やかで和みのある生活を送って頂けるよう笑顔で関わっていききたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 朝・夕の申し送りや月1回のミーティング等で理念を確認しあい、職員の休憩場所やロッカー等の目のつく場所に掲示し自身の振り返りの機会を設けている。 (外部評価) 基本理念をふまえ、管理者と職員が話し合い、10項目の具体的な行動目標を作成し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 各ユニットの入口や、ご利用者・ご家族が集うリビングに掲示し、親しんでいただける様にしている。入居契約時に理念の説明と理念に基づき支援させて頂く旨を十分に説明している。		第1回の運営推進会議にて、ホームの成り立ちや理念・運営者の思いを説明させて頂いた。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 天気の良い日などはホーム周辺を散歩し、途中 近隣の方々と積極的に笑顔で挨拶し、顔馴染みになれる様に努めている。散歩途中、休憩をしていると 通りすがりの方が話しかけてくれる事がある。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 敬老会や秋祭り等、地域行事などに積極的に参加している。近隣の中学生が職場体験の場として10名程2日間に渡り福祉や認知症、地域に密着したのグループホームの在り方として理解を深めていただいたり、少しずつではあるが地域との交流の機会が増えてきている。 (外部評価) 町内会に入会し、老人会や運動会など地域行事に利用者と共に参加したり、ホーム主催の夏祭りに地域住民に参加を呼びかけている。また、毎月1回「お話の会」や踊り、生バンド演奏などのボランティアに来てもらったり、中学生の体験学習や幼稚園の訪問を受け入れるなど、地域の人々との交流を図っている。		ご利用者と職員が仲良く・笑顔で、地域の方々と関わっていききたい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域の中の事業所として相互に協調・協力しあえる関係を築きたいが模索中であり、地域貢献にまでは至っていない。	※	事業所として何が出来るか全職員で話し合いながら取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 全職員は外部評価を受ける意義をミーティングを通して理解を深め、個々に自己評価に取り組んだ後、前回の評価と比較して改善された点、再確認しなければならない点を見直したり、系列のグループホームの評価結果も参考にし、できる所から改善に取り組んでいる。 (外部評価) 自己評価の意義をミーティングを通して理解し、職員全員で取り組み、日々のケアの振り返りと気づきの機会となっている。改善計画書の作成には至っていないが、外部評価の結果を活かして、地域との交流や、災害対策としての備蓄の整備等に取り組んでいる。	※ ※	外部評価や自己評価を活かして、職員の質の向上に繋がっていききたい。 計画的に改善に取り組み、質の向上を確認していくためにも、改善計画書の作成を期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 昨年は、ホームの成り立ち・理念・年間行事・1日の流れ・講演等、外部の方にグループホームを理解して頂くような内容を中心に実施し、毎回、地域の方やたくさんのご家族から貴重な意見を頂き、サービスの質の向上に努めている。	※	地域の幅広いメンバーに参加して頂ける様に工夫していきたい。
			(外部評価) 市担当者、地域代表、家族等を招き、2か月毎に開催している。議題にホームの紹介、利用者の様子、外部評価の公表等を取り上げ、参加者から意見や要望を出してもらい、サービスの向上に活かしている。また、ホーム主催の夏祭りへの協力と参加をお願いするなど運営に反映している。しかし、メンバーがやや固定的で地域住民の参加が少ない。	※	地域住民の理解と支援を得るためにも、地域の様々な分野から会議に参加してもらうよう働きかけていくことを期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 松山市社協の職員の方の実習受け入れ先として、ホームを活用して頂き、ご利用者や職員との交流を図った。研修の相談や困り事にアドバイス頂いたりもしている。また、松山市介護保険課の方に内部研修の講師を依頼し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
			(外部評価) 市担当者とは、研修に関することや分からないことを相談したり、ホームの内部研修の講師を依頼するなどで行き来する機会をもち、サービスの質の向上とともに取り組んでいる。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 外部から講師を招き、勉強会の機会を設けている。ご利用者の方の中に、必要とされる方はいないか？職員間で話し合ったり、ご家族や地域の方からの質問に対応できるように努めている。	※	定期的に学んでいき、理解を深め、必要な方には活用できるようにしていきたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 外部から講師を招き、勉強会を設けて虐待行為の定義や発見時の対応方法を学び、自身の日々のケアに活用している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居前にご本人やご家族に見学して頂き、十分な説明を行ったりご意向を確認し、納得して頂いた上で入所契約を行っている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご自身で意見の言えるご利用者は、意見・不満を積極的に言われる。意見を上手く伝えられないご利用者には、担当職員が代弁したり、表情等から察する様にしている。リビングでの語らいの際、意見や思いを伝えられる雰囲気作りに努めている。	※	今後ご利用者の思いを気づけるように、たくさんの対話を重ねていきたい。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) ご利用者の健康状態や暮らしぶりなど、ご家族が来訪された時や電話で連絡・相談を密に行っている。金銭管理は来訪時に確認・サインして頂いている。職員の異動等については、ホーム便りにてお知らせする様にしている。 ----- (外部評価) 季刊から毎月発行に変更したホーム便りで、利用者の誕生日、折々の行事での様子、職員の異動等について知らせ、また金銭出納簿を送って確認印を貰うなど、家族に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	※	ホーム便りの内容を充実させていきたい。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居契約説明時に、重要事項説明書にて内外の苦情相談窓口をお知らせしている。運営推進会議や来訪時に意見や希望をお伺いし、ミーティングで話し合い、日々の業務の中で反映させる様に努めている。また、季節行事等に参加して頂き、ご家族と職員が親睦が図れ、信頼関係を築き言い易い雰囲気作りをしている。 ----- (外部評価) 意見や要望を出しやすいよう工夫し、家族の訪問時や運営推進会議上で意見等の把握に努め、出された意見等を運営に反映している。重要事項説明書に苦情相談窓口を明示し、玄関にも意見箱を設置している。		運営推進会議でも、ご家族が活発に意見を出して下さるので、今後も訪問時等に対話を重ねていき、たくさんの意見を頂ける関係を築いていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日々の申し送りや全体ミーティング・miniミーティング等で意見を出し合い話し合っている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) ユニット長がシフト作成後、管理者・運営者が再確認している。行事等には職員を多く配置したり、余裕を持った人員を確保している。職員の急な休みの時には管理者・運営者やユニット同士で協力しあい、普段から柔軟な体制がとれる様に努めている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 運営者はやむを得ず離職する場合、2～3ヶ月の引き継ぎ期間を十分に取り、スムーズに移行できるよう配慮している。 (外部評価) 異動や離職を最小限に抑え、ここ半年は落ち着いている。異動・離職がある場合は3か月の準備期間を設け、新規職員を全員に紹介するなど、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 回覧で研修案内情報を全職員に知らせ、段階的に全職員が積極的に働きながら学べる機会を確保している。受講後は報告書を作成し、ミーティングで発表し、全職員が共有している。外部からも講師を招き、受講できる機会も設けている。 (外部評価) 内部研修は市担当者を講師に招くなどして実施している。外部研修は回覧で職員全員に知らせ、参加者には費用の補助を行うなど、積極的な受講を勧めている。研修内容は報告書にまとめ、職員全員が共有できるようにしている。	※	今後も情報は全職員に伝え、全職員が積極的に受講し、質の向上に努めたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会の研修等に参加し、情報交換を行ったり、相互評価事業に参加しサービスの質の向上に努めている。包括支援センター主宰の意見交換会に参加し、同業者との交流を図っている。	※	職員同士が他の同業者と交流が図れる機会をたくさん設けて欲しい。
			(外部評価) 県グループホーム連絡協議会の相互評価事業等に参加し、交流や情報交換に努めている。地域の特性もあり、地域の同業者との勉強会、相互訪問等の実施には至っていない。	※	運営者は地域の同業者とネットワークを結び、職員が相互訪問や勉強会の機会をもてるよう積極的に取り組むことを期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) ご利用者と離れ、心身を休める場所を確保し、リフレッシュして業務にあたれる様、配慮している。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 運営者は頻繁にホームに来ており、職員個々の業務や悩みを把握している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居前にご本人にお会いし、心身の状態や生活状況を把握し、思いや不安を受け止めるよう努力している。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) これまでの経緯を伺い、ご家族の思いを受け止めながら、しっかり話を聴き、事業所としてどのような対応ができるか？今後の方向性について話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、ご本人やご家族の思いや状況等を確認し、何が必要かを見極め、速やかにできる限りの対応に努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) ご本人やご家族にホームを見学して頂いたり、入居前にご利用者の在住場所に出向き、関係性を作る様努めている。少しでも不安を取り除ける様、入居前に体験入所もしている。 (外部評価) 利用前の見学やお試し期間など、ホームで他の利用者や職員と過ごすことを通して、馴染みの関係を築きながらサービスを開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 風邪を引かれたりして体調不良で気分が落ち込んでいる時などは、じっくり話を伺ったりして、ご利用者、一人一人の思いを共感・理解する様に努め、協働しながら和やかな生活ができる場面作りや声掛けをしている。 (外部評価) 一方的に支援するのではなく、声かけや入浴時の会話、調理を一緒にしたりと共に過ごしながら、昔の習慣を覚えてもらったり、励まされたりと支え合う関係を築いている。	※	行動目標を自然に実践できるよう心かけ、寄り添う気持ちを忘れないでいたい。
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご利用者の現在の健康状態や暮らしぶりを来訪時や電話でお伝えしたり、誕生会のメニューを相談したりしている。誕生会にはご家族が手作りのケーキを焼いて持ってきてくれ、一緒に祝ったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 行事や誕生会にご家族を誘ったり、来訪時に自室にて一緒に御飯を食べて頂いたり、御家族で過ごされる時間を大切に支援し、より良い関係の継続に努めている。		今後も気軽にホームに来て頂ける雰囲気作りに努めて、より良い関係が築いていけるように支援していきたい。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 墓参りに職員と一緒に出かけたり、電話や手紙での連絡を取り持ったり等、つながりを継続できる支援を行っている。	※	日々のケアに追われることもあるけれども、一人ひとりの思いや希望を実現できるように努めていきたい。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 毎日のお茶や食事の時間は職員も一緒に多くの会話を持つようになっている。外出時にはご利用者が自ら車椅子を押し下さったり支え合う場面が見受けられる。ご利用者同士で下膳や枕を差し出したり、暴言を発した時などお互いにいたわり合ったり支え合う関係が築けている。		それぞれの状態を把握しながら、ご利用者同士の調整役となり、ご利用者同士が関わり合う機会を増やしていきたい。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 長期入院の為、退所された方に月に1回は会いに行っている。他の施設へ移られたご利用者の様子をご家族に伺ったり、継続的な関係が保てる様、心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 早朝や夕方等、時間帯や職員体制により1階と内線で連携を取り合ったり、対応の工夫しながら、日々の関わりの中で、一人ひとりの思いを把握できる様、会話や行動、表情から汲み取る様、努めている。10時のおやつには好みの飲み物を毎回、伺い提供している。 (外部評価) アセスメントや日々のケアでの気づきを共有し、会話や表情から利用者一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。困難な場合は選択肢を提供して希望や思いを確認するなど工夫している。	※	ご本人の思いに関心を寄せ、思いや意向の把握に努めていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご本人・ご家族・関係者からこれまでの生活歴を伺い、入居後も安心して自分らしく暮らせるよう努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) ご利用者一人ひとりの生活のリズムを理解し、気づきや発見があれば個々の介護記録に記載したり、申し送りやミーティングで全職員が共有できる様、努めている。	※	今後も職員全員で工夫して、現状を共有していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) その人らしくより良く暮らしていただける様、ご本人やご家族にどのように過ごしたい(過ごしていただきたい)か、訪問時や電話でご意向を伺い、作成している。作成後はご本人・ご家族に説明、交付している。 (外部評価) アセスメントを基に、ユニット毎には毎月、2ユニット合同では隔月で開催するミーティングで担当者を中心に話し合い、アイデアを出し合って個別の介護計画を作成している。		今後も、ご家族・ご本人の意見や要望を大切に、介護計画の実施確認表をチェックし、全職員で意見を出し合っていきたい。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 担当職員がモニタリングを行い、3ヶ月に1回見直しをしている。それを基に日々の関わりの中での気づきや変化に応じて、ご本人・ご家族等と話し合い見直しを行っている。 (外部評価) 担当職員がモニタリングを行い、ミーティングで話し合って3か月毎に見直しを行っている。定期的見直し以前の状態変化にはその都度対応し、現状に即した介護計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 1日の様子や排泄等身体状況・個別記録はご本人との会話やエピソード等を記録し、情報の共有を行い、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 受診等ご利用者やご家族が希望される病院へお連れしている。主治医の定期的(状況変化時)の往診や訪問看護ステーションと医療連携体制を結び、定期的に集団・個別のリハビリを行っている。 (外部評価) 本人や家族の要望に応じてかかりつけ医の受診同行や、利用者の故郷への同行など、柔軟に支援している。	※	医療面以外で多機能性を活かした柔軟な支援ができるよう考えていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 民生委員の方には運営推進会議に参加して頂いている。地域の方が月1回お話や手遊びをして頂いたり、ボランティアをしているご家族の方が定期的に演奏をして楽しい時間を過ごしている。	※	今後は地域の警察や教育機関へも働きかけ、連携を図れるように努めていきたい。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 地域の美容室と連携を取り、送迎もして頂き、サービスを利用している。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議に参加して頂き、意見等の情報交換を行っている。相談の電話相談を受け、対応困難な場合や相談窓口が判らない時には相談している。		解決を見いだせない問題や悩みなど、今後も相談しアドバイスを頂きたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入居前にご本人とご家族に主治医の確認を行い、かかりつけ医がない場合は、協力医療機関を紹介している。協力医療機関とは24時間体制で連携をとっている。 (外部評価) 本人や家族の希望を優先して受診を支援し、受診状況や結果の記録は協力医療機関とも共有し、適切な医療を受けられるよう支援している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 協力医療機関の先生は認知症に詳しく、適切な指示や助言をしてくださっている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 開設当時から勤務している看護職員が居り、健康管理や医療面での相談・助言を24時間体制で行っている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時には、ご本人への支援方法に関する情報をご家族等と相談しながら医療機関に提供している。入院後は職員が面会に行ったり、回復状況や退院後の生活についてご家族と情報交換しながら早期退院に向けて話し合っている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 入所時に緊急時の対応や重度化した場合のご意向等伺い、状況変化に応じて主治医・ご家族と繰り返し話し合いを行い、申し送りや日々の記録にて全職員で方針を共有している。 (外部評価) 重度化した場合の対応指針を作成しており、入居時の早い段階から本人及び家族と話し合い、重度化した場合や終末期のあり方について全員で方針を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) ご本人やご家族のご意向を踏まえて主治医の指示のもと、チームの一員として対応・連携を図り、より良く暮らせるように取り組んでいる。		今後も協力医療機関と常に連携を図りながら支援していきたい。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 主治医の診療情報や看護サマリー、ホームでの生活の情報提供を行いご利用者が転居後もダメージを受けないよう取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 男性職員の入浴の時は女性職員と交代したり、申し送りの時はご利用者名を出さないようにしたり、排泄の誘導や日々の関わりの中でも、プライバシーを尊重した言葉かけや対応が行える様に留意している。訪室する際は、ノックや声かけをして入室している。個人情報の取り扱いにも十分配慮して対応している。 <hr/> (外部評価) 管理者、職員はプライバシーの確保の重要性を認識をしており、利用者の誇りを傷つけないよう、声かけや日々のケアに充分配慮している。		みんなと一緒に過ごす時間、居室で過ごす時間、それぞれの時間を大切に、どんな小さな情報も大切に扱う習慣を身につけていきたい。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 週1回のパンの販売日に たくさんの種類の中からご自分の好みのパンを選んだり、入浴・食事・飲み物・体操カードに貼るシール等、日々の生活の中でご利用者自身が決定する場面作りをしている。		ご利用者が自己決定できる場を増やしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 夜間、覚醒していて朝方より入眠され起床時刻が遅くなった時は、無理に一日の流れに当てはめず、ご利用者のペースに合わせて、できる限り希望に添える様、話し合ったり、計画を立てたりして個別性のある対応に努めている。 (外部評価) 1日の基本的な流れはあるが、起床時間や食事時間など、本人の習慣や希望にそって過ごせるよう支援している。	※	今後も職員が「見守る」気持ちを忘れずに、一人ひとりのペースに合わせた支援に努めたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 外出時はネクレスを選んだり、スカーフを巻くのを手伝ったり、見守っている。朝の着替えは、基本的にはご本人の意向で決めて頂き、見守りや支援が必要な時には支援している。また、自己決定がしにくいご利用者には職員と一緒に選んだりしている。マネキュアや美容室等、希望に合わせて個々に支援する様に努めている。		外出の時は、特におしゃれする事を楽しまれるので、早めにお知らせしたりして、対話の時間も増やしていきたい。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一緒に買い物に行ったり、皮むきや調理の下ごしらえや準備・片付け・食器拭き等、個々の状態に応じて声掛けしながら職員と一緒にいる。ご利用者と職員が同じテーブルに座り、一緒に食事を楽しんでいる。 (外部評価) 買い物や調理を一緒にしたり、食事時に利用者同士が助け合うなど、利用者一人ひとりの力を活かしながら、ユニット毎の特性に合わせて職員と一緒に食卓を囲み会話しながら食事の楽しみを支援している。		それぞれの能力に応じた役割を実感できるように関わってきたい。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 個々の好みや嗜好品を理解し、場面や状況により提供できる様に努めている。現在、飲酒されるご利用者はいらっしゃらないが、お花見や芋炊きなどでは提供し、行事の雰囲気だけでも楽しんで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェック表を活用して排泄のリズムやパターンを理解し、可能な限りトイレで排泄できるように プライバシーに配慮しながら、声掛け・誘導している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 毎日、入浴希望を確認し、入浴剤で気分転換を図ったり、身体状況に合わせて足浴を行ったりしている。ご利用者と職員が一对一で関われる大切なコミュニケーションの時間であり、拒まれる方には言葉かけや対応の工夫をし、安全に安心して入浴ができるように支援している。 (外部評価) 毎日、利用者の体調に配慮し、希望を確認しながら入浴を支援している。入浴の苦手な利用者には家族の協力を得て入浴を勧めるなど、それぞれに合った工夫をしている。	※	職員のシフト上、安全面を考慮して、時間帯は日中になってしまうが、唯一、一对一でゆったり関われる時間なので、たくさんのお話を聞くように心がけている。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) できるだけ日中の活動を促し、生活のリズムを整えるように努めている。外出した後など一人ひとり安心して休息できるように配慮している。日中はリビングや畳・ソファなどでテレビを観ながらウトウトされているのを適宜に見守り支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) お茶パックにお茶を入れたり、洗濯干し・たたみや調理の下ごしらえ等、声掛けし、一緒に行ったり、役割を実感できるよう支援している。隣接するカラオケ屋に職員と一緒に歌を披露したり、通販で買い物したり、個々の楽しみを支援している。職員にマッサージをしてくださる方もいる。 (外部評価) 調理の下ごしらえ、洗濯物干し・たたみ等の役割を担ってもらったり、職員と一緒にカラオケや歌謡ショーに出かけたり、通信販売での買い物など、一人ひとりの役割や楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	※	定期的に集団・個別で気晴らしや楽しみ事の支援を行っていききたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ほとんどのご利用者の金銭管理は職員が行っているが、一部のご利用者のご自身で管理・出納を行っている。買い物・外出の際は、おこずかいからご本人に支払をして頂くなど、力に応じた支援をしている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 天気の良い日はシルバーカーや車椅子等も利用してホームの周辺を散歩し、鯉に餌をやったり、食材の買い物と一緒にいたりしている。 (外部評価) スーパーへの買い出し、散歩等に希望に応じて出かけている。ホームの南面に設置しているウッドデッキでのんびりと戸外の様子や季節の風景を眺めながら、外気に触れ日光浴できるよう支援している。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 天気の良い日や希望に応じて、いちご狩りに行ったり、季節の花を觀賞しにドライブに行ったりして気分転換を図り、楽しむ機会を持っている。また、希望を出された時は実現可能であれば検討し支援する様に努めている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族や知人に電話を希望された時は、コードレス電話を使用して自室にてゆったりと電話して頂いている。書いた手紙の投函を支援したりしている。母の日などには、手紙とプレゼントが届き、返事を書いたりしている。	※	帰宅願望が強いご利用者には、時々電話をかけ、話をしている。
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 玄関に施錠をしておらず、面会時間の制限もなく、いつでも気軽に訪問して頂けるよう配慮している。訪問された時は、笑顔で出迎え、自室やリビングで居心地よく過ごせるよう湯茶の用意をしたり、一緒に食事をして頂いたりしている。	※	今後も気軽に訪問して頂ける関係作りをしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 内部研修を行ったことにより、職員間での意見交換を行う機会が増えた。		身体のみならず、言葉の拘束にも気をつけていきたい。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中、玄関・職員出入り口の施錠はしていない。常に見守りや職員同士の声の掛け合いで、出て行く気配を感じたらさりげなく声をかけたり後をつけて行く等、安全面に配慮している。近くのガソリンスタンドに声をかけたり、中学生が職場体験に来た時、認知症（徘徊）の話をし、万が一、そのような場面に出くわした時のお願いをした。 (外部評価) 玄関にチャイムを付けており、日中は鍵をかけていない。職員同士が連携して見守り、利用者が出かける際にはさりげなく同行するなど、利用者の安全に努めている。また、近隣のガソリンスタンドに連絡を依頼したり、体験学習の中学生にも声かけをお願いしている。	※	ご利用者が落ち着く環境を提供する工夫をし、徘徊防止のチャイムに頼らず、職員間で声を掛け合い、目配り・気配りを強化していきたい。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中はリビングでご利用者全員を見守っている。自室で過ごされる事の多い方に対しては、ノック・声をかけ、さりげなく放室し状態を把握している。夜間は最低2時間ごとに巡回し、安全確認を行っている。		午前中はリビングで過ごされる事が多く、午後からはご自分の時間を大切にされる事が多いが、双方共に配慮しながら安全の確認をしている。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 浴室の戸棚に洗剤等の危険と思われる物を鍵をかけて保管している。ご利用者の状況変化によって、カミソリなどはお預かりし、必要時には申し出をいただいで、職員の見守りの基で使用し、使用後は定物定位置を遵守している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議で職員・ご家族・民生委員を交えて勉強会を行った。ご利用者の状態に応じて、一人ひとりの状況に応じた事故防止に取り組んでいる。	※	ヒヤリハットを推進しているが記入ができていくので、職員の意見により、記入し易いネーミングや書式を考案中である。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 消防職員の方による応急手当の勉強会を実施したり、緊急時対応のマニュアルを作成し、周知徹底している。	※	定期的に繰り返し行っていきたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 消防署の協力を得て、避難訓練や搬送の仕方の講習を行った。現状では地域住民の協力は得られていない。系列のホームの外部評価の結果を活かし、食料や飲料水を準備した。	※	地域の方と連携が取れるように働きかけていきたい。
			(外部評価) 消防署の協力を得て、年1回の防火・避難訓練を行っている。防災マニュアル、緊急連絡網を作成し、また食料や飲料水を備蓄して災害時に備えている。法人内の他事業所と協力体制を取っているが、地域住民の協力を得るには至っていない。	※	災害時に備えて、運営推進会議を通して協力を要請するなど、地域との連携体制の確立に向けた取り組みが求められる。また、防災マニュアルを確認しながらホーム独自の避難訓練を繰り返し行うことが望まれる。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) ご利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて職員間で話し合った意見を、共有・把握し、状態が変化する都度、ご家族に相談・連絡を行っている。		今後も、職員とご家族は随時、話し合っていく、主治医とご家族の関係も支援していきます。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎朝のバイタルサインや排泄チェック表、申し送りで状態の把握に加え、顔色や様子を注意深く観察し、看護師に報告し状態に合わせて対応している。状況に応じ、ご家族に相談・連絡を行っている。		迅速な対応ができるように努めていきたい。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 看護師が一人ひとりの薬情報のファイルを作成し、薬情報に変化があった場合は、朝夕の申し送りや申し送りノートで全職員が内容を把握できるようにしている。		今後も更に注意して支援していきます。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表を基に、それぞれの排泄のリズムを把握し、日常生活の中で散歩や体操等で、体を動かす機会を設けたり水分摂取や繊維質の多い食品を取り入れるように心掛け、できるだけ自然な排便ができるように取り組んでいる。	※	今後も、できるだけ自然な排便ができるように支援していきたい。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 口腔ケアの受講者がミーティングで必要性を発表したり、協力医院である訪問歯科医のアドバイスを受けている。義歯の方は、定期的にポリドント洗浄を行ったり、ご自身でできない方は誘導し支援している。一人ひとりに合った歯ブラシを使用している。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士の資格を所有している職員が献立を作成している。食事や水分量の摂取状況をこまめにチェック・記録し、苦手な物や食が進まない時などは、品を替え対応している。食前にはお茶を提供し、少しでも多く摂取していただけるように心がけている。 <hr/> (外部評価) 利用者一人ひとりの食事及び水分摂取量を記録し、必要量が確保できるよう支援している。献立は栄養士の資格を持つ職員が季節の食材をバランスよく取り入れながら立て、嚥下困難な利用者にはとろみ食を用意するなど配慮している。運営者の釣った新鮮な魚の差し入れが時折あり、利用者は楽しみにしている。		季節行事や習わしなどを大切にしながら過不足が生じないように支援していきたい。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) ご利用者・ご家族の同意を頂き、職員共にインフルエンザの予防接種を受け、手洗い・うがいを心掛けている。感染症予防のマニュアルを作成し、共有空間を中心に消毒を行っている。		ノロウイルス対策に次亜塩素酸ナトリウム消毒液を使用している。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食材の賞味期限に留意し、冷蔵庫内の点検や安全管理に努めている。調理器具や布巾、まな板は毎日消毒している。	※	中国産食材の問題等で、在庫食品の点検や、安全面を考慮して食品を購入している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関周りには花を植えて、季節を感じられる親しみやすい和やかな雰囲気になる様、工夫している。	※	玄関から職員が出入りするのではなく、職員出入り口が別にあるので、玄関まわりの美化等は随時、気にかけている。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関・廊下・リビングに壁面担当の職員が中心となって、ご利用者と一緒に季節を感じられる様に工夫している。床暖房の設備があり、換気・加湿に留意し、快適に過ごせるよう努めている。 (外部評価) 玄関には観葉植物や季節の花が飾られ、床暖房で暖かい共用空間は居心地よく、食事前には調理の香りが漂っている。居間の壁には手作りの飾りや座敷雛を飾るなど、季節感にも工夫がある。ホームの南面のウッドデッキは、季節の花や木々を眺めながらの利用者と職員の憩いの場となっている。	※	中学生が職場体験で来てくれた際、壁面作りをしていただきご利用者がたいへん喜ばれたので、地域の方と一緒に関わって頂き、居心地のよい空間作りができるよう連携を図っていきたい。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 和みの部屋やリビングにはソファーや畳の間があり、玄関には運営者手作りの長椅子があり、ご利用者がくつろげる環境作りに努めている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家で使っていた家具などを持ち込み、部屋が殺風景にならぬように出窓に観葉植物やぬいぐるみなど馴染みのものに囲まれて、明るい部屋作りに努めている。ベットや畳を自由に選んでいただき、本人の過ごしやすい環境整備を心がけている。 (外部評価) 利用者それぞれの好みの物や観葉植物、季節の花を飾り、家族や本人の写真、カレンダー、仏壇やたんすなど馴染みのものを持ち込み、居心地よく過ごせるように工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 新鮮な空気を取り入れるように配慮し、各居室やリビングにエアコン空気清浄機を設置している。ご利用者の衣類の調整もこまめに行い、自然に近い住環境づくりに努め、快適に過ごして頂けるように配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 既存の住環境を職員は十分に把握して、手すり等を利用してご利用者一人ひとりの身体機能に応じ、安全かつ自立した生活が送れるように配慮している。		現在は安全でも、ご利用者の身体状況の変化に伴い、住環境設備の迅速な改修を行える体制作りを目指したい。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 各居室の入口にご利用者の写真を表札代わりにしたり、便所や浴室には、運営者手作りの墨で書いた分かりやすい表示があり、混乱を防ぎ自立を促せるような環境作りに配慮している。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) リビングから自由に入出りできるウッドデッキがあり、庭の花を楽しみながら日向ぼっこをしたり、桑の実など収穫しジャムを作ったりしている。また、花見や芋炊きなど、ご家族も交えて季節行事を楽しむ大切な空間となっている。		今後も畑やウッドデッキを活用して、楽しみ事を増やしたり、交流の場所となるように工夫していきたい。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらい 評価) ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない	職員がご利用者一人ひとりの話に耳を傾けることで、ご利用者の思いや願い、不安を伺うことはできているが、安全面や職員体制により意向や願いが叶えられないこともある。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない	10時と15時のおやつや昼食の時間は、ご利用者と職員と一緒にテーブルを囲み談話したり、ゆったりと和やかに過ごしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	みんなで過ごされる時間と、自室で過ごされる時間を個々に大切にされている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	職員と一緒に体操したり、日常生活の支援を行うことにより、会話が弾んだり、笑顔や笑い声がよく見られる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	買い物や散歩、季節行事等、職員と一緒に出かけ楽しんでいるが、体調不良で行けないこともあったり、職員体制上必ずしも、行きたいところに出かけることはできていない。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	夜間はホームに隣接して運営者がおり、ユニットごとに1人、ホーム内に2人の夜勤者を配置し、巡回以外にも見守りも強化している。医療連携体制や職員である看護師が24時間体制で連携をとれるようにしているが、更に努力していく必要がある。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	日々の関わりの中で、個々の思いや要望を伺ったり、思いを理解する様に努めており、安心して生活できている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	(自己 ① ほぼ全ての家族と 評価) ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない	ご家族が訪問されたたびに近況を報告したり、不安な事やご意向を伺っている。入所して日の浅い方に関しては、信頼関係が築けるように努めていきたい。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 ① ほぼ毎日のように 評価) ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない	お話の会や地域の中学生の職場体験や幼稚園児の訪問等、少しずつは地域との交流は増えてきている。今後も努力していきたい。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議を通して、民生委員の方とつながりが拡がった。少しずつでもホームを理解して頂ける様に努めていきたい。
98	職員は、生き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	多少のストレスを抱えていると思うが、行動目標の中の「いつも笑顔を忘れず」を特に心掛け業務にあたっている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	季節行事や外出を楽しみにしておられ、計画の段階から話が弾んでいる。身体状況に合わせて支援はさせていただいているが、職員体制上、希望に添えない事もある。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	「状態に合わせた食事や対応で安心している。」「笑顔が増えて、穏やかになった。」「言われる事はあっても、こちらから言う事はない。」等、言っている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

※各居室や廊下、みんなが集うリビングには冷暖房設備の他、床暖房が設置されており、乾燥を防ぎ足元から温め、換気器具を活用し換気に優れ、快適な住環境で過ごすことができます。

※ホームから自由に入出りできるウッドデッキがあり、桜の木の下で季節行事を楽しんだり、日向ぼっこをしたり交流と親睦の場所となっています。

※菜園で食材や花を育てたり、桑の実などが植えてあり、馴染みの自然に触れる機会を設け、親しみやすい雰囲気作りに努めています。

※昔ながらの木造作りで、季節を感じられ安心感があります。

※「信頼」「和」「安心」を基本理念に掲げ、常に笑顔を心がけ、ご利用者・ご家族・地域の方々・職員との信頼関係を大切にし、安心して穏やかで和みのある生活を送って頂けるように努めています。

※日々の状態の変化に注意し、かかりつけ医と連携を図り、医療連携体制や職員である看護師と24時間体制で健康管理に取り組んでいます。

※運営者が新鮮な魚を釣って来て、会話を弾ませながら一緒に食べたり、双海や中山・川内方面へドライブへ行き、気分転換を図り自然に触れる機会をできる限り設けています。